大手前新聞

創刊
2018年(平成30年)
佐伯市役所
大手前開発推進室
☎0972-22-4623

交流拠点を目指して『まちの広場』

大手前広場作業状況
（吊り降ろし）

大手前
③到着

国道217号
②搬送中

旧佐伯豊南高校のエノキ
①根回し

1000mの大移送

縁（エン）の木

少子高齢化による人口減少や広域な市町村合併などの大きな変化の中、1月19日午前4時、大手前広場校舎建設に伴い、樹齢約100年の旧佐伯豊南高校のエノキ（1本）を移送しました。

大手前広場作業状況（吊り降ろし）

エノキは、高さ18m、幅10m、重量18トンの大きな移動式クレーンで吊り上げ、周辺の交通規制を行いました。

エノキの根回しは、昨年10月31日に行われました。

エノキは、樹齢約100年の植樹を移送するにあたり、根回しを行いました。

エノキは、樹齢約100年の植樹を移送するにあたり、根回しを行いました。

エノキは、樹齢約100年の植樹を移送するにあたり、根回しを行いました。

社会見学

新しい大地に根を下ろして

1月20日、大手前広場にて、佐伯小学校の児童約100人（1年生と5年生）が見守る中、エノキの植樹を行いました。

広場（植樹を見守る児童たち）

広場整備

賑わいの創出 憩いと安らぎ

「芸術文化・歴史・交流人口の創出」は、市内各地の祭りや伝統文化など、地域の特色をいかした創生事業、市民文化のすそ野を広げる普及事業、以上3つの事業タイプを念頭に置いて、事業を実施いたします。

「様々な人々が集う、憩いの場、安らぎの場、賑わいの創出を目指す。」

「信頼と安心の拠点、文化・芸術の発信拠点、人々が集う、憩いの場、安らぎの場、賑わいの創出を目指す。」

（写真はイメージ）
大手前広場（仮称）

野外劇場前広場（仮称）
（大道芸フェスタ時の様子）

令和２年度開館記念事業のラインアップ決定

さいき城山桜ホール

本年10月31日に開館するさいき城山桜ホールにおいて、開館後1年間をめどに実施する記念事業のうち、令和2年度に実施する主催・共催事業が決定しました。事業の企画に当たっては、国内外の優れた文化芸術を紹介する鑑賞事業、市内各地の祭りや伝統文化など、地域の特色をいかした創生事業、ワークショップ、講座、講演会など、市民文化のすそ野を広げる普及事業、以上3つの事業タイプを念頭に置いて、事業を実施いたします。

〈令和2年〉

◇10月31日(土)
世界的ピアニスト 小菅優ピアノ独奏、佐伯出身能声楽家 青木涼子による謡と弦楽四重奏、ベートーヴェン交響曲第九番の演奏と合唱

◇11月1日(日)
さいき創生こども・市民ミュージカル公演「タカラとワカ海を越える軌跡～桜編～」

◇11月3日(火・祝)
ネマニャ・ラドゥロヴィチ　ヴァイオリン演奏会

◇11月14日(土)・15日(日)
第2回さいきBIG BANG!大道芸フェスタ

◇11月22日(日)
第40回九州・沖縄現代音楽祭　民族楽器を含む小編成アンサンブルによる演奏会

◇11月28日(土)
ファミリーコンサート　オーケストラで聴くジブリ音楽

◇11月29日(日)
伊勢正三コンサート

◇12月20日(日)
生で聴く　のだめカンタービレの音楽会（ピアノ版）人気漫画とクラシックコンサートをマッチングした演奏会

〈令和3年〉

◇1月24日(日)
自衛隊ふれあいコンサート　吹奏楽演奏会

◇2月7日(日)
神田松之丞独演会

◇2月13日(土)
柳家権太楼・県南落語組合ジョイント寄席

◇3月7日(日)
合唱春の祭典　市内合唱団による合唱とワークショップ

◇3月14日(日)
生で聴く　のだめカンタービレの音楽会（オーケストラ版）

◇3月27日(土)・28日(日)
TAOフェスティバル　世界的な和太鼓エンターテインメント

◇3月28日(日)
春の祭典　各地の伝統文化、食の魅力を発信

◇月イチ企画
映画鑑賞やロビーコンサートを開催

佐伯がいちばん！

外から見た佐伯市・大手前計画について…

平成26年4月に着任し、副市長として大手前開発事業に携わることになりました。

当時、「外（福岡）から来た何も知らない人で大丈夫なの？」という声もある中でのスタートでした。また、通勤や散歩の際、見知らぬ私にいつも元気よく挨拶をしてくれた高校生の姿が今でも思い出されます。佐伯市での生活、その第一印象は驚きと心地よいものでした。

また、休日・公務を通じて市域を周るのが楽しみで、「地元の方とのお話」や、「水の子灯台守跡」や、「宇目の神楽」など様々な歴史・伝統文化に触れ、感動したものです。

そして、城山から望む大手前の眼下にし、望む大手前の構想を描いたものでした。

城山から望む大手前

大手前計画を進める上で、「前計画」に係る地元関係者の方々の思いを大切にすることを考えておりました。お会いする機会を得ておお話を伺い、ご苦労や大手前に対する思いの言葉は今でも忘れることができません。

市民会議・高校生部会、大手前開発基本計画協議会の皆さんの議論、ご意見などを伺い、大手前に対する思いや熱意はすばらしく、心が動かされたのを覚えています。

大手前開発基本計画策定に当たり、長年大手前に関わり、まちづくりに情熱をもたれない課長を始め関係職員の皆さんには、無理注文もいたしましたが、十分に応えてくださいました。

人口減少等の現状において、「地域の元気感謝しております。

活性化」には容易ではないと思います。これも「人」では取組にとらわれないでしょうか、「様々な発想」は必要ではないでしょうか。それができるのは（さいきびと）、さきに述べた若者にもその「力」は十分に備わっていると思います。

さいき城山桜ホールの10月オープンを心から期待しております。

今後も益々佐伯市が発展されることを心から祈念いたします。これからも佐伯市の応援団の一人でありたいと思います。

前佐伯市副市長
白川　逸喜